

P1

東京, 2019.2.24

統合医療プログラムの構築と実践

五寶秀美¹、橋本知子¹、神徳美奈江¹、庵前美智子¹、常友貴子¹、中岡義晴¹、森本義晴²

¹ IVF なんばクリニック ² HORAC グランフロント大阪クリニック

不妊治療を受ける患者において補完代替医療への関心とニーズは高まっており、我が国においても生殖補助医療施設での導入が進んでいる。当院でも開設と同時に補助治療やカウンセリングを導入、2011年より統合医療プログラム (PG) として、生殖補助医療と密接に連携し、患者の個々のニーズに応じて活用できるよう統合医療コーディネートシステムを構築したのでここに報告する。

PG では、医師による診断と治療方針に沿った指示を経て、コーディネーターによる統合医療コーディネートで個別面談で行う。PG は、胚質改善・アンチエイジング・着床改善・卵胞数増加・男性因子・冷え症改善・多嚢胞性卵巣症候群対策・早発閉経対策・内膜肥厚に分類されている。コーディネーターは生殖医療の看護の経験を積み、生殖医療相談士、漢方養生指導士の知識を持った看護師であり、PG に沿って患者のニーズを的確に把握し、必要なカウンセリングや補助治療を提案する。現在当院では 3 種のカウンセリングと 8 種の補助治療を実施している。

カウンセリングや補助治療に関心はあっても何時、何を受けたらよいか分からないという患者は多い。逆にあれもこれもやらなければいけないと思ひ込み、疲弊してしまう患者もある。コーディネートでは質問票を用いて心身の状態をスクリーニングし、状態に応じて必要なサポートを勧める。また、同時に患者自身も十分気付いていないライフスタイル全体に関わるニーズを把握し、各種カウンセリング・補助治療の適切な活用へと繋いでいく。

更に、初回コーディネート後は適宜フォローアップでの個人面談の機会を設けており、採卵や移植の前後、判定後など治療段階に応じたサポートを行っている。不妊治療を受けている患者の体調や気持ちには浮き沈みが大きく、治療の初期から個別に関係性を構築することが必要に応じた継続的な支援を行うことが可能と考えている。近年その傾向は増しつつある。